

スズランの北海道内分布と生育環境 (予報)

千歳市 五十嵐 博

はじめに

北海道は広く、個々の植物の分布資料は不十分であることが多い。最近、札幌市内でまとまったスズランの群落に出会えた。この場所は原松次 (1992) 編著「札幌の植物—目録と分布表—」の調査地以外であり、全ての地区ではないが調査に同行した一人として興味をもったことは言うまでもない。「札幌の植物」では漁岳、大谷地、東部緑地、広島町、真駒内公園の5カ所が分布表に記載されており、大谷地、東部緑地の2カ所は自己確認している。スズランは札幌市の花であるが従来まとまった群落地は報告されていなかった。これを契機に北海道内におけるスズランの分布や生態を調べたが調べれば調べるほど不明な点が多いことが判明した。筆者自身の各地を見た印象と文献などから調べた結果を予報として報告する。

1. スズラン属の概説

スズランはユリ科スズラン属 (*Convallaria* L.) に属し、学名は *Convallaria keiskei* Miquel である。中井秀樹氏によれば、「*C. keiskei* は、1867年 (明治10年) に発表されている」が何故か異名としての、*C. majalis* var. *keiskei* Miq.) Makino が長く使用されていた。

スズランの属名—*Convallaria* は「谷」を意味するラテン語 (*convallis*) からきてお

り、英名は *Lily of the valley* (谷間のユリ) である。別名にはキミカゲソウ (君影草)、タニマノヒメユリなどがある。また、スズランはカキラン (ラン科) *Epipactis thunbergii* A. Gray の別名でもある。

スズラン属は、大井・北村 (1983) によれば「4種、北半球の温帯に分布する」とされているが全種を記載していない。

佐竹 (1989) では「北半球に数種、日本に1種ある」と記し、スズランとドイツスズランを列記している。

萩屋 (1994) では「ヨーロッパ、アジア、北アメリカに3種が分布する」と記載しているが北アメリカ産の詳細は見られない。

河野 (1977) では「北半球の温帯に3種ある。アメリカスズラン、*C. majuscula* Greene は北アメリカ東部アパラチア山脈一帯に生え、大型で、苞は披針形で大きく、雄しべの花糸は葯より長い」との記載が見られる。「スズランの場合、花糸は葯との長さはほぼ同じと記載されており、葯の色は黄色である。ドイツスズランの場合は花糸は基部が淡紫色、葯は淡緑色である」と整理している。

その他の各種文献では、2種類 (*C. keiskei*、*C. majalis* = スズラン、ドイツスズラン) で扱う場合も多く見られた。

松井洋氏から入手した北米のリスト (出典不明) では、*C. montana* Raf. の記載がある。中井秀樹氏によれば、コーカサス産